

英語科学習指導案

単元名 Unit7 「Welcome to Japan」 (NEW HORIZON Elementary 5年) (学習要領：(4) ウ)

人権教育 重要課題 (2) 子どもたち

令和7年12月10日(水) 第5校時 Eルーム

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所やそでしたいこと、できること等についての英語を聞き取ることができる。 ・I want to ~の使い方を理解して、表現を用いて自分のやりたいことを話すことができる。 	(削除)
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの小学生が「日本に行ってみたい」と思えるように、紹介する内容や表現、話す順番等を工夫して「日本のよさ」を紹介することができる。 	(削除)
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの小学生が「日本に行ってみたい」と思えるような「日本のよさ紹介」ができるように、できることや魅力について、伝えようとしている。 ・グループで協力して、教え合い、助け合いながら話し合いを進めようとしている。 	(削除)

2 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所やそでしたいこと、できること等について英語で聞き取ったり、I want to ~の使い方を理解して、自分のやりたいことを話したりしている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの小学生が「日本に行ってみたい」と思えるように、紹介する内容や表現、話す順番等を工夫して「日本のよさ」を紹介している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力し合って、話し合いを進めようとしたり、フィリピンの小学生が「日本に行ってみたい」と思えるような「日本のよさ紹介」となるように、簡単な語句や基本表現を用いて、考えや気持ちを話そうとしたりしている。

3 人権教育とのかかわり

本校は日本語教室設置校であり、学級や学年に外国籍の児童や外国にルーツをもつ児童が多く在籍している。異なる言語や文化をもつ人々との関わりが日常的に行われており、そういった、人々と積極的に関わろうとする心情や態度は十分に養われていると感じる。また英語の授業内でも言語や文化の違いを面白さとして捉えて、興味関心を高めている児童も多い。しかし、そういった目に見える違いには正しく対応できても、学級内の学習能力の違いや考え方の違い等、見た目には分からないような違いをその人の個性やよさと認識して、正しく受け止めることができずに、できないことをからかってしまったり、自分と考えが違う人を批判したりするような傾向が見られる。

現代は「多様性の時代」といわれ、様々な違いを個性と捉え、それを強みにインターネット等のメディアを通して発信して、活躍の場を得ることができている人も多く、個性が受け入れられる傾向が強くなっている。またSNS等を通じて自分の考えや意見を容易に発信できる時代でもあり、そういった人達への誹謗中傷になるような内容の発信をしてしまう人もいるため、正しい判断・表現ができる力の素地を小学生にうちに身に付けておくことは大変重要である。

本単元では、グループワークを通して、グループ内の異なる能力・考えをもった児童同士が互いを受け止め、認め合い、小集団として「フィリピンの小学生が日本に来たいと思えるような、魅力ある「日本のよさ紹介」にするにはどうしたらよいか」という共通の目標に向かって、相手意識や仲間意識をもって協力して活動に取り組めるようにする。

【育てたい能力・態度】

○実践力：共通の目標達成のためのグループワークを通して、お互いの考えのよさや違いを認め合いながら、課題解決に向かうことができる。

4 指導及び評価、ICT 活用の計画（全9時間：本時第6時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの小学生からの「フィリピンの魅力紹介」のビデオメッセージを視聴して、内容を理解し、単元の課題を確認し、ゴールへの思いを高める。 ・伝えたい「日本のよさ」について考え、単元の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 単元の課題 フィリピンの小学生が「日本に行ってみたい」と思えるような「日本のよさ紹介」をビデオレターにして送ろう。 </div>			○
2	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所やしたいこと等の英語表現に慣れ親しみ、教科書の会話から具体的な情報を聞き取る。 	○		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・したいことや理由を尋ねる表現を知り、友達と尋ね合う。 	○		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで伝えたい日本の魅力について話し合い、インターネット等を活用してスライドを作成する。 		○	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでスライドの内容を分担して、声に出して発表練習をする。 		○	
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ同士で中間発表会を行い、互いの発表のよいところを見つけ合い、認め合い、褒め合う。 ・他のグループの発表や他のグループからのアドバイス等を活かして、自分のグループの発表を改善するための話し合いを行う。 			●
7	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよいビデオレターになるように、再度グループ内で練習したり、表現の工夫をしたりする。 		○	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して、ビデオレターを作成し、クラス内で見合う。 		●	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の Let' s Listen や聞き取りのワークシートに取り組む。 ・Over the Horizon を見て聴いて、日本文化について考える。 	●		

5 言語活動の価値

本単元では、「フィリピンの小学生が日本に来たいと思えるような『おすすめ紹介ビデオレター』を作成し、日本のよさを伝える」という言語活動において、「伝えたい」という思いをもって活動に取り組めるように、フィリピンに実在する小学生からのビデオレターが届いたという状況設定をしている。これは、具体的な相手を対象とすることで、児童の思いや考えを英語を用いて話そうとする意欲や関心を高めることにつながる。また、日本のよさを伝える場面設定により、I like～やI can～等の既習表現に加え、What do you want to do?やI want to～等の新出言語材料を繰り返し聞いたり、用いたりする機会を確保することができ、定着につながると考える。

II 本時の学習（6／9）

1 ねらい

グループ同士での中間発表会を通して、お互いの「日本のよさ紹介」のよさを見付けたり、改善へのアドバイスをし合ったりして、フィリピンの小学生が、より日本に来たいと思えるような発表へと改善できるようにする。

2 人権教育の視点

実践力：お互いのグループの発表を聞き合っ、よいところを見付け、互いを認め合い、褒め合い、改善の指摘をも受け止めることができる。

3 展開

主な学習活動 予想される児童の反応〔C〕	○指導上の留意点◆評価項目（観点）
<p>1 改めてビデオレターを見返して、目的を再確認し、本時のめあてをつかむ。（10分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて>（仮） フィリピンの小学生が、より日本に来たいと思えるようなビデオレターの内容にするために、グループ同士で発表を見せ合おう。</p> </div> <p>C: フィリピンの子たちのためのビデオレターを作るんだったな。 C: フィリピンの子たちに日本のよさを伝えたいな。 C: どんなビデオレターなら思いが伝わるかな。</p>	<p>○心と体を英語モードに切り替えられるよう、リズムに合わせてテンポよく、英語でのあいさつルーティンをする。 ○単元の目標を想起できるよう、単元の最初に提示したフィリピンからのビデオレターを改めて全員で視聴する。 ○自分でやりたいことを考えて選択・決定できるよう、児童の言葉を基に本時のめあてを立てる。 ○改善点を基に活動の見通しを立てられるよう教師が誤った例を紹介し、どこが間違っているのか確認する。</p>
<p>2 各グループごとに、発表練習をする（3分）</p> <p>C: ○○くん、スラスラ読めてよかったよ。 C: スライドの見せ方は大丈夫かな？</p>	<p>○自信をもって活動に取り組めるよう、ALT と分担してグループの練習の様子を見取り、賞賛の言葉掛けやアドバイスをします。</p>
<p>3 2グループずつ組を作って、互いのグループの発表を聞き合い、よさを認め合ったり、改善へのアドバイスをし合ったりする。（22分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される児童の紹介文 I want to tell you about Gunma. You can enjoy onsen. You can eat Yakimanju. It' s delicious.</p> </div> <p>C: もっと文を増やした方がいいと思います。 C: スライドがきれい日本で日本のよさが伝わりやすくてよいと思います。</p> <p>C: onsen は英語で hot spring にした方が伝わりやすいんじゃないかな？ C: Yakimanju は英語では何て伝えたらいいのかな？ C: You can buy を使って、群馬ならではの土産を紹介するのはどうかな？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される児童の紹介文（改善後） I want to tell you about Gunma. You can enjoy hot spring. You can buy Daruma dolls. You can eat grilled buns. It' s delicious.</p> </div>	<p>○他のグループの発表に対する気付きや、聞き取ったアドバイス等を次回に生かせるよう、ワークシートの活用を促す。 ○発表回数を確保したり、話し合いの活発化を図ったりするよう、活動時間だけを与え、時間内の活動についてはグループごとに任せる。 ○活動が停滞しないよう、机間支援をしながら様子を見取り、必要に応じて支援やアドバイス等を行う。 ○改善へのアドバイスの仕方や内容についてクラスで考える時間を確保できるよう、発表を終えたところで、「どんなアドバイスがもらえた？」と投げ掛け、クラス内で情報の共有を図る。</p> <div style="border: 2px dashed orange; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>互いのよさや違いを認め、自分の課題に気付き、改善してよりよくしようとする。 【実践力】</p> </div> <p>○クラスで考えたアドバイスの仕方や内容を生かしたやりとりができるよう、再度組を編成し直して、別のグループとの発表ができるようにする。</p>

4 ワークシートを用いて、本時の学習内容を振り返る。(10分)

<振り返り>

C: グループ内では気付かなかった視点でアドバイスがもらえた。楽しめるものと食べ物の他にそこでしか買えないお土産も入れてみたいと思った。もっとよいビデオレターを作って、フィリピンの子たちに日本に来てもらいたいという思いが強くなりました。

C: 友達に、「声が大きくて聞き取りやすかった」とほめてもらえてうれしかったです。次は私も友達のよいところを見付け、褒められるようにしたいです。次回はもっと感情を込めて言えるようにしたいです。

○観点をしぼった振り返りができるよう、ワークシートを工夫する。

○気付きや感想を共有すると共に、それぞれの自己肯定感が高まるよう、具体的な言葉で賞賛する。

◆評価項目(主)

ワークシートの記述内容から、「もらったアドバイスを踏まえて、次回やりたいことへの思いや考えについて、具体的に表現しているか」を評価する。